

研究テーマ ●海の森（藻場）を守り、育てる技術開発

大学院連合農学研究科

教授 寺田 竜太

<http://seaweedresearch.blogspot.com/>

研究の背景および目的

山に森があるように、海の中にも広大な海藻（草）の森があります。海の森は「藻場」と呼ばれ、沿岸域における主要な光合成の場として重要視されています。また、藻場は魚介類の隠れ家や生息場、産卵場としても機能することから、生態系や沿岸漁業においても欠かせない存在です。近年、藻場が各地で消失し、深刻な問題となっています。海に森を取り戻すにはどうしたらよいか？九州・沖縄を中心として、藻場を保全し、再生させる研究に取り組んでいます。

■おもな研究内容



海藻の森(アカモク)

藻場の保全や再生には、**産官学の連携**が不可欠です。基礎研究を中心に、以下の課題に取り組んでいます。

- ・各地における藻場の現況調査(潜水調査)
藻場の潜水調査ができる九州唯一の大学
水産庁や環境省、県等との共同研究や依頼実績
- ・藻場を構成する海藻の生態、生活史に関する研究
- ・海藻の生長や成熟におよぼす環境条件の研究
九州随一の研究機器(藻類培養用の大型インキュベーター、Diving-PAMなど藻類の光合成活性測定機器等)を常備
科学研究費補助金など競争的資金での研究実績
- ・海藻の生育に適した水中構造物の検証試験
海藻の生育効果等を実験系や現地調査で評価
- ・藻場の重要性を伝える講演や観察会
県や漁協、博物館等での講演や観察会
地域が取り組む藻場保全活動(水産庁・県事業)を支援

期待される効果・応用分野

藻場の保全や造成をビジネスチャンスとする企業に専門家の立場から技術指導を行うと共に、海藻の着生や生育効果等を評価することが可能です。

また、九州南部や南西諸島には、フコイダンやカラギーナンなど、有用物質を含有する未利用海藻が多く残されています。これら未利用資源の大量養殖技術開発の支援も可能です。「モズク」や「海ぶどう」養殖も、小さな試験研究から始まりました。

■共同研究・特許などアピールポイント

●当研究室は我が国で最も南に位置する海藻（大型藻類）の研究室であり、熱帯・亜熱帯性海藻の分類や生態、増養殖技術開発を専門とする国内唯一の研究室として高く評価されています（日本藻類学会評議員、学会誌編集長）。

🗨️ コーディネーターから一言

海の森である「藻場」を守り育てる研究のエキスパート。藻場の保全・造成に関する調査や技術協力、未利用海藻の養殖技術開発での支援活動を積極的に行います。日本最南端の海藻研究室ならではの調査研究も展開中です。

研究分野	水産学、水産植物学、藻類学
キーワード	海藻、藻類、環境保全、藻場造成、陸上養殖